

2019年9月12日

各位

神奈川県初となる燃料電池バスへの水素供給の開始について

当社（社長：大田 勝幸）は、横浜市が公共交通の低炭素化を目指して導入する燃料電池バス（以下、FCバス）への水素供給事業者に決定しましたので、お知らせいたします。

横浜市は、神奈川県で初めて市営バスとしてFCバス1台を試験導入し、みなとみらい地区等で運行することを決定しましたが、燃料となる水素は運行に適した当社の横浜南水素ステーション（横浜市南区、2016年3月開所）において充填します。当該ステーションの充填機に燃料電池自動車（以下、FCV）に加えてFCバスにも対応できる水素充填プログラムを導入することで、充填機1台で対応できる体制を整備します。10月2日の運行開始にあわせFCバスへの水素供給を開始することで、「Zero Carbon Yokohama」を掲げる横浜市の持続可能な大都市モデルの実現に協力してまいります。

当社は、全国で41カ所（神奈川県下13カ所、横浜市内6カ所）の水素ステーションを運営しており、今後もFCVやFCバスをはじめ、他のモビリティへの供給体制を整備し、水素の製造、輸送・貯蔵から販売に至るまでのサプライチェーン構築に積極的に取り組み、水素エネルギー社会の実現に向けて貢献してまいります。

以上

<参考>

【横浜南水素ステーションの概要】

開所日	2016年3月7日（月）
所在地	神奈川県横浜市南区通町4-100
運営者	株式会社ENEOS水素サプライ&サービス
敷地面積	771m ²
供給方式	オフサイト方式（圧縮水素を水素トレーラー等で輸送）
水素供給設備	圧縮機、蓄圧器、冷凍機、充填機など
供給能力	300Nm ³ /時



【外観】

